

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王北小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国よりも低く、課題がみられます。特に「書くこと」については、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がみられます。一方で言葉の特徴や使い方に関する事項では、話し言葉と書き言葉との違いを理解することができています。
- ・算数の平均正答率は全国とほぼ同程度であり、一定の定着がみられます。特に「数と計算」「データの活用」については、表の意味を理解し全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができています。一方で「変化と関係」については、数量が変わっても割合は変わらないことについて課題がみられます。
- ・理科の平均正答率は全国よりも低く、課題がみられます。特に「エネルギー」を柱とする領域については、日光の性質を理解することに課題がみられます。一方で「地球」を柱とする領域については、観察で得た結果を問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができています。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「朝食を毎日食べていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について高い数値を示しています。また、算数と理科の書く問題について、「最後まで解答を書こうと努力した」という児童の割合が高いです。
- ・課題となる項目
「新聞をほとんど、または全く読まない」という児童の割合が高いです。「放課後や週末に、TV・SNS・ゲームをして過ごすことが多い」という児童の割合が高いです。また、国語の書く問題について「最後まで解答を書こうと努力した」という児童の割合が低いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・難しくても最後まで粘り強く取り組むというよさを認め、引き続き児童の自尊感情を高めていきます。
- ・学習内容の確実な理解と定着を図り、友達との対話を通して学びを深めるために、ICT機器を効果的に利用した授業改善に取り組みます。
- ・「書くこと」の学習では、自分が書いた目的や意図を相手に伝え、感想や意見を具体的に伝え合う活動や、伝え合ったことを基にして自分の文章のよさを書く活動を取り入れていきます。
- ・「変化と関係」の学習では、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりする活動を取り入れていきます。
- ・「エネルギー」の学習では、主体的な問題解決を通して知識を習得できるようにすることや、習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明する活動を取り入れていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・「家庭学習の手引き」を活用し、子ども達が自ら学習に取り組むことができるように声をかけてください。
- ・「TV・SNS・ゲーム」等について、使う時間や使い方のルールを決めて守らせましょう。
- ・学校での出来事や、新聞・TVのニュース等の内容を話題として、家庭で会話をする時間を取りましょう。
- ・ICT機器を使った学習機会が増えています。利用上のルールや情報モラルが守れるように、家庭で話し合ったり、守れているか確認したりする機会を作ってください。